

幾代会 11月植樹式のまとめ

- ◆ 日時 2025年 11月1日 (土)
- ◆ 集合 吉野園地(即清寺下)駐車場
- ◆ 参加者 幾代会会員10名、一般35名、 計45名
- ◆ ポイント 一の滝に「玉英」「道知辺」「青龍枝垂れ」「幾夜寝覚」の梅樹を迎える
- ◆ スケジュール
 - 10:00吉野園地駐車場集合→10:10夫婦沢→10:45一の滝植樹式
 - 11:45吉川英治記念館にて御祝の筝の演奏→12:45昼食交流会→14:30終了

<夫婦沢>

植樹式の前に、一の滝に流れる夫婦沢にて地元の増沢さんより、説明を頂きました。三室山山頂の北東斜面を水源として、夫婦沢が流れ、多摩川に合流している。夫婦沢には大小いくつかの滝があるが、名前がついているのは「雨乞いの滝」と「青龍の滝」。 「雨乞いの滝」は上郷(八坂神社)の守護神として、水神、大山祇神、俱利伽羅龍などが祀られている。また一の滝近くの大聖院には、青龍にまつわる伝説が残され、青龍は源流の夫婦岩に棲み「雨乞いの滝」と「青龍の滝(一の滝)」を行き来していたと伝えられています。

<植樹式>

事前準備として、地元有志による草刈り作業、会場整備など、段階を踏んで行いました。植樹された梅樹は4種、5本。京都、隅田農園様より、「玉英」「道知辺」の成木2本、「青龍枝垂れ」2本、「幾夜寝覚」1本は、日本梅の会会長、大坪孝之先生により接ぎ木苗として植樹式に間に合うように準備して頂きました。

植樹式のためにご尽力された、幾代会代表 故越前和子氏の残された音声テープによる挨拶と共に植樹式が始まりました。2025年1月に設置された一の滝看板の案内を会員の平さんが説明され、いよいよ植樹スタート。参加された全員が交代で青龍枝垂れ、幾代寝覚の2本の梅樹にシャベルで土をかけました。夏から少しづつ準備していた樹木板の名札を会員で梅樹に取り付けました。テープカットでは、梅樹の成長を未来に託す気持ちを込め、子供たちと、地域の代表の方にお願いし全員で記念撮影。お天気にも守られ、無事に滞りなく終えることができました。

式の後は一の滝の見学へ。前日の大雨のおかげで、滝の水量も多く見事な美しい姿を見せてくれました。



<御祝の箏演奏>

青梅市吉川英治記念館 主屋にて、生田流 箏奏者 岩城奈帆さんによる植樹式御祝いの演奏が行われました。心を込めて選曲された3曲を披露されました。会場にはこの日のために「つるし梅」が展示されました。

◆ 箏曲 千鳥の曲 吉沢検校 作

塩の山差出の磯に住む千鳥 君が御代をば八千代とぞ鳴く 詠人知らず
淡路島通う千鳥の鳴く声に 幾夜寝覚めぬ 須磨の関守 源兼昌

◆ 神楽歌 青梅

青梅永山に鎮座する金刀比羅神社を
長い間守られてきた斎藤慎一先生が詠まれた和歌。
青梅の地が豊かな自然と共に永く栄えますよう
祈りが込められています。

1、清く流るる多摩川の 今をはるべと此の花の
里に咲けるやさきがけて 結ぶ実青く朽ちもせず

4、つきず流るる多摩川の 今をはるべと此の花の
里にかほるやさきがけて 結ぶ実青く永久にあり



◆ 一の滝 梅植樹記念和歌

青龍が平和を誓い天を舞い 梅花ただよう吉野梅郷

幾代会代表 越前和子

<植樹式交流会>



交流会の会食では、郷陽さんの御祝弁当を頂きました。幾代会のこれまでの活動の歩みを会員の太田さんよりご紹介。

一の滝植樹式に向けての準備、経緯などを手作りのスライドにて鑑賞しました。

これまで幾代会の活動に関わってくださったゆかりの方々が集まり、代表の越前和子氏を偲びながら生前の活動に深く感謝し、あらためて親睦を深める貴重な時間となりましたこと、心より感謝申し上げます。

<まとめと感想>

この日を一番待ちわびていた代表をお見送りすることになり、悲しみと不安でいっぱいでしたが沢山の方のおかげで無事に植樹式を開催することができ、誠にありがとうございました。

美しい一の滝が山と川を結び、人と人を結び、春には喜びの花が咲きますように。

ひとりの方の真の願いが、多くの方のこころに継がれていきますように。

春には皆さんとお花見ができるのを、楽しみにしています。

(宮野 記)